

学番	4 3	県立三条東高等学校
----	-----	-----------

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	<p><教育目標> 誠実で自立して在る若人の育成</p> <p><スクール・ミッション> 【探究学習をとおして、多様な人々と協働し地域や社会に貢献する人材を育成する学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学究型の伝統校として、確かな学力を定着させ、自他の心と生命を尊重する精神、持続的に努力する気力・体力、課題解決能力を向上させる力を育成する。 ・探究的な学びや活動をとおして、身に付けた知識・技能、思考力・判断力・表現力を生かし、多様な人々と協働し地域や社会に貢献する人材を育成する。 ・学校設定教科「医療専攻」の学びをとおして、将来、地域医療を担う人材の育成に貢献する。 <p><校長の学校経営ビジョン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションの実現に向け、スクール・ポリシーを起点とした教育活動の改善を図る。 ・社会と繋がる力の育成、学びを深める力の育成、進路に繋げる力の育成により、3年間の成長のストーリーを描く。 ・効率的・効果的で円滑な校務を推進し、働き方改革と職員のワーク・ライフ・バランスを促進する。 	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報を集め、選択し、理解して、課題を見つける力を育成します。 ② 情報や知識を深め、広げて、課題を考察していく力を育成します。 ③ 情報を発信し、社会や地域とつながり、協働する力を育成します。 ④ 前向きにものごとを捉え、諦めず、努力を続ける力を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 課題発見に必要な情報収集のために様々な媒体を活用する授業を行います。 ② 実物に触れる等、実体験をとおして知識を深められる教育活動を行います。 ③ 集団において意見の発表や議論を繰り返し、相互評価する授業を行います。 ④ 社会や地域と協働等をとおして、課題解決に挑戦する教育活動を行います。 ⑤ 集団活動を通じて多様な仲間と協力し、社会性を育成する取組を行います。 	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的好奇心があり、失敗を恐れず、粘り強く挑戦しようとする生徒 ② 物事に熱心に取り組んだ経験があり、入学後もそれを活かせる生徒 ③ ふるさとを誇りに思い、自ら行動し、さらなる活性化を目指す生徒 ④ 向上心があり、まわりに自分の意見を積極的に伝えようとする生徒 ⑤ 社会性があり、まわりの意見を尊重し、課題解決しようとする生徒 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>医療専攻 7 期生が卒業し、看護・医療系大学等へ進学率が前年を上回るなど成果を上げた。医療専攻のプログラムに更なる充実と探究活動の充実により、引き続きキャリア形成の醸成と、これらを主体的に進路選択に活かす力を身に付けさせるよう授業改善を図りたい。</p> <p>大学短大進学希望者の進路実現についても例年以上の成果がみられたが、3年間を見通した継続的で組織的指導となるよう改善に努める。</p>	<p>円滑な校務運営と教育課程の実施に努めるとともに探究活動と ICT 等の利活用を進め、確かな学力の定着を図り、進路希望を達成させる。</p>	<p>円滑な校務運営と教育課程の実施による授業時数確保と ICT 等を利用した確かな学力の定着を図る。</p>
	<p>基本的な生活習慣の確立を促し、規範意識の涵養に努める。また、交通安全指導を徹底する。</p>	<p>継続的で組織的な進路指導体制を確立し、探究活動等を通じて、生徒の多様な進路希望達成を支援する。</p>
	<p>部活動と学校行事の活性化を促して生徒同士の関係構築能力を高め、安心・安全で心身ともに健康な学校生活の実現を図る。</p>	<p>基本的な生活習慣確立を促す指導を徹底する。</p>
	<p>部活動と学校行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動しようとする態度の育成に努める。</p>	<p>生徒の自主的・自律的な生活態度の確立を促し、規範意識の涵養に努める。</p>
		<p>保健指導と教育相談体制を充実させ、生徒が心身ともに健康な学校生活を送ることを支援する。</p>

<p>P T Aと連携した街頭指導の実施により、保護者等との交通安全指導に対する意識共有を図ることができた。今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>いじめ事案への組織的対応、早期発見・早期対応を徹底し、日常的な生徒との面談や職員間での情報共有に努めている。引き続き体制を維持するとともに一人一人の生徒を尊重し対応していく。</p> <p>教員の時間外勤務時間の縮減に対する意識は徐々に高まってきている。更なる縮減を図り、ワーク・ライフ・バランスが保たれるよう働き掛けていく。</p>	<p>P T A活動のさらなる活性化を図り、生徒の学びの環境の充実を図る。また、生徒の利用しやすい図書環境作りに努める。</p>	<p>P T A行事等の企画運営やP T Aだより等の発行により保護者等への情報提供、保護者等との連携を深め、P T A活動の活性化を図る。</p>		
	<p>図書館の資料整備・充実を進め、利用しやすい環境作りに努める。</p>	<p>時間外勤務時間月 80 時間、年間 720 時間超を出さない。</p>		
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
円滑な教育課程の実施	円滑な校務運営と教育課程の実施によって授業時数の確保と確かな学力の定着を図る指導に努める。	他分掌・各学年との連携を深め、円滑な校務運営に努める。	A	A
		生徒・教職員の負担軽減を図りつつ、授業時数の確保に努める。	A	
		授業変更等により、生徒の学習時間の確保を図る。	A	
		チャイム前の授業準備や、迅速な教室移動を生徒に指導する。	A	
		課題の量的バランスに配慮しながら、生徒の学習習慣の確立を促す。	A	
		ホームページ等を活用して、保護者等や地域への情報発信に努める。	A	
生徒の進路希望達成	継続的で組織的なキャリア支援体制を確立する。	キャリア指導部と学年が連携し将来を見通したキャリア指導計画を作成する。	A	A
		「進路のしおり」を作成し、各学年段階で必要な指導を継続的に行う。	A	
	生徒の多様な進路希望実現を支援する。	生徒の進路希望実現に効果的な模試や教材の活用を検討・実践する。	A	
		講演会等を計画的に実施し、早期からキャリア意識を高める。	A	
指導の徹底と規範意識の涵養	交通安全指導を徹底する。	交通講話やバイク実技講習会、全校集会を通じて交通安全指導を徹底する。	A	A
		街頭指導及び駐輪指導を実施し、交通事故防止を図る。	A	
	基本的な生活習慣の確立を促し、自立的な生活態度と規範意識の涵養を図る	薬物乱用防止講話やインターネットを含む携帯電話に関する講話を実施する。	A	
		頭髪・服装検査を学期始めに実施し、全職員で指導の徹底を図る。	A	
		朝の声かけを継続的に実施し、服装や遅刻防止、挨拶の励行等を指導する。	A	
		規律委員会でポスターを制作するなど、生徒が互いに注意できる環境を作る	A	
		定期的に学校生活調査を実施し、いじめ等の現状把握と防止教育に取り組む。	A	
部活動と学校行事の活性化	部活動と行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動する態度の育成に努める。	行事への積極的参加を促し、自主的・意欲的に行動し、実践する態度を育成する。	A	A
		部活動紹介等を通じて、全校生徒に部活動への積極的参加を促す。	A	
		部活動を通じて、さらなる学校生活の活性化を図る。	A	

心身ともに健康な学校生活の実現	保健指導と教育相談体制を充実させる。	健康診断を着実に実施し、事後措置についても丁寧に指導する。	A	A	A	
		生徒の心身の健康について、職員間で情報を共有し協働して関わる。	A			
	安全かつ快適な学校生活環境をつくる。	防災計画を確実に遂行し、地震・火災等への安全体制を徹底する。	A	A		
		学校内外の環境整備を行い、美化に努める。	B			
保護者等との連携の推進	P T A活動に対する保護者等の参加を促し保護者等と学校との連携を深め、P T A活動の一層の活性化を図る	P T A理事との連携を深め、諸事業への積極的な参加を図る。	B	A	A	
		P T A広報誌「かけはし」を年2回発行し、学校やP T A諸活動を広く紹介する。	A			
		大学等のオープンキャンパスへの参加報告を実施し、保護者等の進路に関する意識の啓発・向上を図る。	A			
		理事会等の実施をとおして、保護者等との連携に努める。	A			
資料の整備と利用の促進	利用しやすい図書館の環境作りに向けて、資料整備や充実に努める。	図書館資料の充実を図り、授業実施の支援と生徒の学習支援に努める。	A	A	A	
		図書委員会の活動がより活発になるよう、指導に努める。	A			
		蔵書整理や館内環境の整備を進め、将来予想される校舎改修に備える。	A			
働き方の見直し	時間外勤務時間月80時間、年間720時間超を出さない。	教員の在校等時間を適正に把握し、長時間在校等傾向を改善するため、意識啓発と業務適正化を図る。	B	B	B	
		本校の部活動に係る活動方針で定めた活動時間や休養日等の遵守に努める。また、複数の顧問が交替で指導に当たることができるよう調整する。	B			
各学年での指導の充実	1学年	【社会と繋がる力の育成】 生徒の自己実現のため、基礎学力の定着と主体的で規律ある生活態度を育成する。	生徒面談を綿密に行い、高い進路目標を持たせ、それに向けて努力させる。	A	A	A
			生徒が新しい環境に円滑に適応できるよう、家庭と連携し支援する。	A		
			予習復習など家庭学習習慣の定着を目指し、基礎学力を向上させる。	A		
			自律した高校生になれるよう、学業と課外活動の両立に留意させる。	B		
	2学年	【学びを深める力の育成】 進路希望の実現に向け、更なる学力の定着と、前向きで意欲的な生活態度を育成する。	生徒面談を定期的に行い、家庭との連携を密にして、生徒が主体的・協働的に高校生活を送ることができるよう努める。	B	B	B
			模試の有効活用と朝学習の充実により、学習習慣の確立と学力の伸長を図る。	B		
			学業と課外活動のバランスが取れた、中堅学年に相応しい自覚ある行動を促す。	B		
			継続的な情報提供や進路ガイダンス、個別面談により、生徒が進路等について主体的に考えるよう促す。	B		
	3学年	【進路に繋げる力の育成】 自己実現のため人間力を養成し、学力伸長と進路希望達成を支援する。	生徒と面談を繰り返し、家庭との連携を密にして、生徒が主体的・協働的に学校生活を送れるよう支援する。	A	A	A
			模試の有効活用と進路希望別講習の充実により、確実な学力伸長を図る。	A		
			継続的な情報提供や面接指導を行うことで、主体的な進路決定を促す。	A		
			進路ガイダンスと個別指導により、生徒の進路目標達成のための支援を行う。	A		
成果	四年制大学への進学率は昨年度並みであったが、難関国立大学2名を含め、国立大学への進学者が増加した。今後、総合型選抜、学校推薦型選抜を利用した受験の増加が予想されることから、3年間を見据えた進路指導を組織的に行う必要がある。医療専攻では、医療機関や大学等と連携した取組により、2年次に医療専攻を選択し今年度卒業した生徒の80%以上が医療系大学等に進学し、成果を上げており、今後も関係機関との連携を深めていく。探究学習において、同窓会からの支援を受けながら、地元企業と連携した取組を行うことができた。今後も継続して実施していく。			総合評価	A	

学番	43	県立三条東高等学校
----	----	-----------

令和 6 年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

保護者及び「学校評議委員会」及び「地域の声を聞く会」等の意見より

○学校生活について

- ・生徒の欠席が多いことについて、自分の会社でもLINEで休むことを伝えてくる新入社員がいて問題だと思っている。卒業して社会に出ても感覚が変わっていない。学校が教育の場だと感じる。
- ・これから増えていくと思う。特にコロナ禍以降、家庭でも休ませていいという考え方がある。不定愁訴も病であると思うが、どこで線引きをすればよいのか学校と家庭で話し合う場が必要なのではないか。
- ・実際欠席日数が多く、時数が足りなくなるケースはあるか。
 - －そのようにならないように家庭との連絡を密にとっているが、どうしても欠時超過になる場合もある。特別な配慮を必要とする理由があれば補講等で対応している。

○特別支援、いじめ対策等の生徒支援について

- ・中高生の自殺者数が多くなっている中で、カウンセラー（SC）が時間をかけて相談活動を行なっていることを聞き、よい取組だと思った。保護者にも面談を行なっているとあるが、相談生徒の保護者が面談を受けているのか。また、保護者が相談した場合は、SCから学校にフィードバックはあるか。
- ・中学校ではSCの来校日は、月に1、2回程度であるため、SCの複数配置はうらやましい。学校として生徒支援に力を入れていると感じる。

○生徒指導について

- ・いたずらによる通学用自転車のパンクが数回あった。保護者の立場として、学校で困ったときに相談しやすい環境づくりを進めてもらいたい。

○授業見学をとおして

- ・生徒の様子、先生方の熱心な様子を見ることができてとても有意義であった。生徒も教員もタブレットや電子黒板を活用しながら、わかりやすい授業を行なっていると感じた。
- ・中学校の卒業生がきちんと授業を受けている姿を見ることができ、しっかりと指導されていると感じた。

○探究活動について

- ・探究活動等で校外に出て、企業の方など大人と話をする機会は学ぶことはとても大切である。ぜひ取組を継続してもらいたい。探究活動で支援できることがあれば協力したい。社会探究活動をとおして地元の良さを知ってもらいたい。

○医療専攻について

- ・医療専攻の取組が知れて良かった。プログラムを通じて医療従事者が育成されているのはいいことだと思う。自分も医療従事者であるが、医療従事者を確保するために県央基幹病院ができたので、同じ医療従事者として地域に根ざした取組を継続してもらいたい。

○進路について

- ・保護者として自分の子どもにもう少し早くから進学準備をさせておけば良かったと思っている。家庭でも行なっているが、学校でも生徒に早めに情報提供し、意識付けをさせてもらいたい。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
円滑な教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程が全学年とも揃うなかで、評価方法などについて各教科の意見を集めながら運用の改善を図った。 ・校務支援システムの円滑な運用に努めた。 ・各定期考査間の授業時数の調整を目指したが、非常勤講師が担当する授業が多く、曜日バランスの偏りを埋めるのは容易でなかった。 ・教員の働き方改革、生徒観の変化や合理的配慮などを踏まえて、指導や業務のあり方を少しずつでも改善していくべきであると考えている。
生徒の進路希望達成	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路希望を持つ生徒に対して、ガイダンスや講演会を実施し、必要な情報提供や意識啓発を図ることができた。 ・特編授業や進学講習、模擬試験等について、キャリア指導部・学年・教科が連携して実施し、大学進学を希望する生徒への指導を充実させることができた。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜、就職希望者への個別指導により多くの生徒の進路実現につなげることができたが、職員負担の増加が課題である。大学等から指導連携の申し出があるため、積極的に活用したい。
指導の徹底と規範意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度実施の「生徒の心得（校則）」見直しアンケートの結果に基づき、制服のリボンやシャツ、セーター等について校則を見直し、令和 7 年入学生から変更することとした。 ・「朝の声かけ」については副任が担当し、担任の負担軽減を図った。次年度も同様に実施する。 ・自転車乗用時の交通ルール徹底やマナー向上を目的に、交通講話の実施や全校集会での指導を行った。次年度は、より具体的な事例をもとにポイントを絞って指導する。 ・「携帯マナー講座」や「薬物乱用防止講演会」を実施した。SNS を通じた友人関係のトラブルや闇バイトの危険性があることから、次年度も指導内容や講師を実態に合うよう検討し実施する。 ・自転車窃盗や現金の盗難が疑われる事案が複数件発生した。規律委員によるポスターの作成や日頃の指導で、自己管理を徹底させる。
部活動と学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が落ち着き、生徒会行事もコロナ禍前に戻りつつある。生徒会執行部でも、これを機に生徒の意向を集約し、今後の行事に生かしていこうと主体的に活動している。半面、行事に直接かかわる委員会がやや受け身的である。執行部と委員会が密接に連携し互いに刺激し合っていくことが望まれる。また、中学校の部活動の地域移行が進みつつあり、高校でもそれにどう対応していくかを考えることが必要となる。
心身ともに健康な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒健康診断の学校保健業務、清掃指導、冷暖房機指導、救急法講習を実施した。 ・生徒が抱える心身の課題について、教職員・スクールカウンセラー等と連携・協働し、教育相談・支援に努めた。 ・避難訓練を実施し、地震・火災発生時に自らの命を守り、安全に避難できるような体制構築に努めた。 ・次年度は校舎（部室・セミナーハウスを含む）の美化に努めたい。
保護者等との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻等連絡ツールである「さくら連絡網」をとおして日々の連絡や保護者等へのお知らせ等を配信した。 ・担任を始め、保健室等から得た生徒の情報により、保護者等と連絡を取りながら丁寧に対応を行っており、今後も継続していく。
資料の整備と利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や探究活動を支援するための資料整備を行った。必要な資料がすぐに提供できるよう、さらなる充実を図りたい。 ・図書委員会活動では、広報の発行などについて指導した。より活発な活動になるよう、継続していきたい。 ・蔵書や館内環境の整備を引き続き行う。

働き方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日を年間12日間、夏季休業中に閉庁日を5日間設定している。また、定時退庁日を月1回程度設定している。出退校簿等により働き方を客観的に数値で把握することに加え、日常業務の見直しや精選を進めていく。
1 学年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の出身中学校と連携して生徒情報を共有し、学年団で協力し、生徒との対話や面談を通して生徒理解に努めた。また、生徒が抱える悩みや課題について、保護者等や特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーとも連携しながら、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、解決に向けた支援に取り組んだ。 生徒が卒業後の進路を主体的に捉えることができるよう、ICTを活用し、学習動画や連絡事項のWeb配信により効率的に学習できる環境整備に努めた。また、社会探究活動では、県内自治体等と連携し、課題設定と探究の問いに向けて協働的に学習を行った。 次年度は、具体的な進路に関する情報の提供、上級学校や企業の見学などを通じて、より高い進路目標を具体的に意識させることができるよう努めていきたい。
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> フィールドスタディー、文化祭、修学旅行など、集団や地域、異年齢の方との関わりのなかで、周囲との関係性を意識しながら自己の在り方を考えて行動する場面を多く経験し、社会性の伸長につながるよう努めた。また、個々の生徒の課題に対して、スクールカウンセラーや保護者等と密接に連携し支援を行い、円滑に学校生活を送ることができるよう努めた。 上級学校合同説明会や大学講義体験、社会探究活動を通じて、生徒が自己の将来について考え、大学や受験への意識を高め、学習時間を増加させ、学力の伸長につながるよう努めた。 次年度は、最高学年として生徒が自覚ある主体的な行動ができるよう促すとともに、希望進路を明確にし、生徒面談などを通じて自ら行うべきことを具体的に実行できるよう支援していきたい。
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 保護者等対象の進学説明会、生徒面談、三者面談を通じて家庭と進路情報を共有し、理解と協力を得て進路実現に向けた活動を進めることができた。また、落ち着いた学習環境を維持し、生徒が協働的に学校生活を送ることができるよう支援した。 生徒の進路希望が多岐にわたるため、進路別ガイダンスや入試方式ごとの説明会を実施し、新課程入試にも対応できるよう、継続的な情報提供を行った。 3年0学期を設定し受験勉強を早期に開始する意識を高め、模擬試験の結果分析や進学講習と進路希望別の補習授業を充実させることで確実な学力伸長を図り、小論文や面接の個別指導を充実させることで主体的に進路目標を達成できるよう支援した。 総合型選抜や学校推薦型選抜の希望者が増加しており、これらの生徒への指導時期が一般選抜の希望者への指導や推薦書作成の時期と重なるため、より効果的、効率的な指導方法を検討していく必要がある。今後、教員数が減少することから喫緊の課題である。